

教科名	国語	科目名	現代の国語	対象学年	1 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	1 単位	時 数	3 5
目 標 (生徒につけたい力等)	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	3	村田沙耶香「こそめスープ」	勘違いを題材にした身近な内容の随筆を読み、筆者独自の考え方を理解する。それを通して、感じ方・考え方には多様性があることに気づく。			
	3	福岡伸一「ルリボシカミキリの青」	筆者の少年時代の実体験を追い、「好きなこと」を発見・追究することの魅力を理解する。また、各自の「好きなこと」について考え、自己を見つめ直す。			
	4	山崎正和「水の東西」	日本と西洋の文化の比較を通して、日本文化の特質を理解する。また、二項対立を巧みに用いた本文を通して、論理的で説得力のある文章に用いられる技法について理解を深め、実践する。			
2 学期	4	塚谷裕一 「スキマが育む都市の緑と生命のつながり」	身近な植物を観察した成果を記述した文章を読み、自然や生命の豊かさの基盤となっているものは何かを読み取る。また、自分の身近な細部に目を配り、その重要性に気づく契機とする。			
	3	村上信夫「鍋洗いの日々」	理想とは異なるシビアな現実に直面した筆者の苦労と工夫を読み取る。また、仕事や労働について考え、その厳しさと、苦労を乗り越えた先にあるものを想像する。			
	4	鈴木奈々子「森で染める人」	山間部に住み、自然から得た材料で染め物作りをする筆者の考えを追跡する。また、自然の循環の輪を乱さない、持続可能な産業の魅力について考える。			
	4	渡辺美佐子「りんごのほっぺ」	出来事の順序を整理しながら、戦時下の人々が置かれていた状況を理解する。それらの出来事を通して、筆者が抱えている思いを読み取る。			
3 学期	5	細馬宏通「不思議な拍手」	心理学的な知見を挙げつつ認知症患者の拍手の理由を推察した筆者の推論の流れを理解する。それを踏まえ、患者の拍手が起こったのはなぜか、自分なりに推論する。			
	5	鷺田清一「真の自立とは」	世間で誤解されがちな「自立」の意味を考察する本文を読み、筆者の主張を理解する。それを踏まえて、自らの「自立」について考えを深め、表現する。			
教科書/ 副教材	教科書「新編現代の国語」(東京書籍) 副教材「字義で覚える常用漢字」(浜島書店) ※「言語文化」と共通					
関連科目	「言語文化」					
評価の 観 点	知識・技能	・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている ・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解している				
	思考・判断・表現	・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にしている ・読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて工夫している ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している				
	主体的に学習に取り組む態度	・授業の際に必要な教材を準備している ・学習に臨むにふさわしい態度である ・学習内容に興味・関心を持っている ・自分なりに考えようとする姿勢を持っている				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)		◎	○	◎	2 0
	実験・実習(行動観察、技能)					
	テスト等		◎	◎		6 0
	レポート・ノート・課題等		○	○	○	1 5
	自己評価				○	5
その他 ()						
留意事項	現代の国語は、1 年次 1 単位、2 年次 2 単位の計 3 単位となる分割履修科目とする。					
備考						

教科名	国語	科目名	言語文化	対象学年	1 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	2 単位	時 数	7 0
目 標 (生徒につけたい力等)	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)		
1 学期	1 0	俵万智「さくらさくらさくら」	筆者の体験談に注意しながら、桜に対する日本の伝統的な感性について理解を深める。本文中の引用歌を通して、在原業平の優れた和歌に触れるとともに、短歌の基本的な知識や技法について確認する。		
	1 0	古文に親しむ 古文「児のそら寝」	古典の名文を音読することを通して、古文と現代文の違いを理解し、古文の文体に馴染みを持てるようにする。現代仮名遣いと歴史的仮名遣いの違いについて確認する。また、古文で書かれた文を読み、話の面白みを理解する。		
2 学期	1 4	赤木明登『美しい』ということ	伝統工芸作家である筆者が考える「美しい」ものに対する認識を捉える。人生の中で触れる対象が、豊かな感性の根源となっていることを理解し、日々の生活の中で触れる事物への興味を高める。		
	1 6	古文「絵仏師良秀」	古典文法の基礎的事項を確認しながら、古文で書かれた文章の内容を理解する。いかなるものよりも芸術を重んじる主人公の心情を分析する。また、このような古典説話が、芥川龍之介などの作家によって翻案され読まれていることを知る。		
3 学期	8	百人一首に親しむ	百人一首の編者や成立といった背景を確認し、構成する百首を概観する。また、かるたとしての百人一首を楽しむ。かるたの基本的なルールを確認し、「ばら取り」や「源平戦」など様々な遊び方があることを知る。		
	1 2	俳句「雪の深さを」	俳句の成り立ちや主な修辞技法を知る。様々な俳句に触れることで、限られた字数の中で凝らされた工夫の巧みさや表現の幅広さを楽しむ。その上で、現在でも多くの人々に楽しまれている俳句を自分でも作り、作品を応募する。		
教科書/ 副教材	教科書「新編言語文化」(東京書籍) 副教材「字義で覚える常用漢字」(浜島書店) ※「現代の国語」と共通				
関連科目	「現代の国語」				
評価の 観 点	知識・技能	・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している			
	思考・判断・表現	・自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している			
	主体的に学習に取り組む態度	・授業の際に必要な教材を準備している ・学習に臨むにふさわしい態度である ・学習内容に興味・関心を持っている ・自分なりに考えようとする姿勢を持っている			
評価の 観点・方法	観点・方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)	◎	○	◎	2 0
	実験・実習(行動観察、技能)				
	テスト等	◎	◎		6 0
	レポート・ノート・課題等	○	○	○	1 5
	自己評価 その他 ()			○	5
留意事項					
備考					

教科名	地理歴史	科目名	地 理 総 合	対象学年	1 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	2 単位	時 数	7 0
目 標 (生徒につけ たい力等)	(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。						

学 期	時数 (時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	2 0	地図や地理情報システムと現代世界	現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解すること。			
			現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現すること。			
2 学期	1 0	生活文化の多様性と国際理解	世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解すること。			
			世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現すること。			
	2 0	地球的課題と国際協力	世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解すること。			
3 学期	1 3	自然環境と防災	様々な自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付けること。			
			地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現すること。			
	7	生活圏の調査と地域の展望	生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解すること。			
教科書/ 副教材	教科書「わたしたちの地理総合 世界から日本へ」(二宮書店) 「高等地図帳」(二宮書店) 副教材「わたしたちの地理総合 準拠ノート ワークブック」(二宮書店)					
関連科目	科目「 地 理 」					
評価の 観 点	知識・技能	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。				
	思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養っている。				
	主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深めている。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)			◎	○	30
	実験・実習(行動観察、技能)		○		◎	5
	テスト等		◎	○		30
	レポート・ノート・課題等			◎	○	30
	自己評価			○	◎	5
	その他 ()					
留意事項	特になし					
備考	特になし					

教科名	数学	科目名	数学Ⅰ	対象学年	1 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	3 単位	時 数	1 0 5
目 標 (生徒につけたい力等)	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を養う。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	1 0	数と式	計算の基本を身につけ、式の展開の技能を向上させる。 因数分解の技能を向上させるとともに、展開と因数分解の理解を深める。			
	1 0	数と式	数を拡張する必要性に触れ、実数という数を認識させ、無理数の計算(√の計算)の習熟を図る。 不等式の性質について理解を深め、1次不等式の解法を習得させる。			
	1 0	数と式 課題学習	集合を定義し、その表し方を具体的に理解させ、包含関係・補集合・共通部分・和集合などの基本的概念を理解させる。 第1章 数と式: 紙の形の秘密について考える。			
2 学期	1 5	2次関数	関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識させ、1次関数の理解を深める。 2次関数について理解し、そのグラフを描けるように練習させる。			
	1 5	2次関数 課題学習	2次関数の値の変化を理解し、最大値・最小値を求められるようにする。2次関数の値の変化を利用して、2次方程式との関連及び2次不等式の解法を習得させる。 第2章 2次関数: 放物線を利用して半分に分けることを考える。			
	1 5	図形と計量 課題学習	直角三角形における三角比の意味について理解し、測る道具としての有用性を認識させる。相互関係を理解し、計量に役立てる。 第3章 三角比: 建物や木の高さを測る方法を考える。			
3 学期	1 0	図形と計量	正弦定理・余弦定理を用いて計量する技能を習得する。三角形の面積についても理解を深める。また、三角比を拡張し、その考え方の有用性を理解する。			
	1 0	データの分析	データ分析の基本的な考え方を理解し、データの整理や特徴をつかめるようにする。四分位偏差や標準偏差の意味について理解する。 データの散らばり具合を調べる方法を習得させる。また、コンピューターを使用したデータ分析方法を理解させる。			
	1 0	課題学習 まとめ	第4章 データの分析: データを分析し、考察する。 演習問題で1年間の総復習をする。			
教科書/ 副教材	教科書「新 高校の数学Ⅰ」(数研出版) 副教材「新 高校の数学Ⅰ 対応 教科書学習ノート数学Ⅰ」「Step By Step! 新高校の数学」(数研出版)					
関連科目	「数学A」(2年次必修) 「数学Ⅱ」(3年次必修)					
評価の 観 点	知識・技能	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。				
	思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養っている。				
	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を養っている。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)		—	—	○	(30)
	問題演習(行動観察、技能)		—	—	○	(30)
	テスト等(定期考査・小テスト)		◎	◎	—	70
	レポート・ノート・課題等		—	—	◎	(30)
	自己評価		—	—	◎	(30)
その他()						
留意事項						
備考	評価の観点・方法における評価の割合は座学・問題演習・課題・自己評価を総合的に判断し、合わせて 30%とする。					

教科名	理 科	科目名	生 物 基 礎	対象学年	1 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	3 単位	時 数	1 0 5
目 標 (生徒につけたい力等)	(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な機能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然現象の保全に寄与する態度を養う。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	9	生物の多様性と共通性	様々な生物の比較に基づいて、生物は多様でありながら共通性をもっていることを見いだして理解すること。また、生物の共通性と起源の共有を関連付けて理解すること。			
	1 2	エネルギーと代謝 呼吸と光合成	生物とエネルギーに関する資料に基づいて、生命活動にエネルギーが必要であることを理解すること。また、光合成や呼吸などの代謝とATPを関連付けて理解すること。			
	9	遺伝情報とDNA	DNA の構造に関する資料に基づいて、遺伝情報を担う物質としてのDNA の特徴を見いだして理解するとともに、塩基の相補性とDNA の複製を関連付けて理解すること。			
2 学期	1 1	遺伝情報の複製と分配	遺伝情報の発現に関する資料に基づいて、DNA の塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列との関係を見いだして理解すること。			
	1 1	遺伝情報の発現	体の調節に関する観察、実験などを行い、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして理解すること。			
	1 1	体内での情報伝達と調節 体内環境の維持のしくみ	体内環境の維持の仕組みに関する資料に基づいて、体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を見いだして理解すること。また、体内環境の維持を自律神経と関連付けて理解すること。			
	1 2	免疫のはたらき	免疫に関する資料に基づいて、異物を排除する防御機構が備わっていることを見いだして理解すること。			
3 学期	1 0	植生と遷移 植生の分布とバイオーム	植生の遷移に関する資料に基づいて、遷移の要因を見いだして理解すること。また、植生の遷移をバイオームと関連付けて理解すること。			
	1 0	生態系と生物の多様性	生態系と生物の多様性に関する観察、実験などを行い、生態系における生物の種多様性を見いだして理解すること。また、生物の種多様性と生物間の関係性とは関連付けて理解すること。			
	1 0	生態系のバランスと保全	生態系のバランスに関する資料に基づいて、生態系のバランスと人為的攪乱を関連付けて理解すること。また、生態系の保全の重要性を認識すること。			
教科書/ 副教材	教科書「新編 生物基礎」(数研出版) 副教材「新編 生物基礎 準拠ノート サポートノート」(数研出版)					
関連科目	科目「 生 物 」					
評価の 観 点	知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な機能を身に付けている。				
	思考・判断・表現	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。				
	主体的に学習に取り組む態度	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然現象の保全に寄与する態度を身に付けている。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)		○	○	◎	1 0
	実験・実習(行動観察、技能)		◎	○	◎	1 0
	テスト等		◎	◎	—	6 0
	レポート・ノート・課題等		○	◎	◎	1 5
	自己評価 その他()		—	—	◎	5
留意事項	実験においては、自身と他人の身の安全を優先すること。また、実験対象生物への慈愛を持つこと。					
備考						

教科名	保健体育	科目名	体育	対象学年	1 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	2 単位	時 数	7 0
目 標 (生徒につけたい力等)	(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	2 0	体づくり運動 陸上競技 体育理論	集団行動、体力を高める運動、持久走を行う			
		ソフトボール バレーボール	基本的な技能やルールを学び、ソフトボールやバレーボール特有の競技を楽しむことができるように行う。			
		水泳	クロールと平泳ぎを中心として、基本的な泳ぎ方を学ぶことができるように行う。また、水辺での活動における注意点を学ぶ。			
		柔道	柔道の特性を理解し、基本的な受け身等を学ぶ。			
2 学期	3 0	バドミントン	基本的な技能やルールを学び、バドミントン特有の競技を楽しむことができるように行う。			
		バスケットボール	基本的な技能やルールを学び、バスケットボール特有の競技を楽しむことができるように行う。			
		サッカー・フットサル	基本的な技能やルールを学び、サッカー・フットサル特有の競技を楽しむことができるように行う。			
3 学期	2 0	バレーボール 卓球 ダンス	基本的な技能やルールを学び、バレーボールや卓球特有の競技を楽しむことができるように行う。 現代的なリズムのダンスを中心に行う。			
		体育理論	運動・スポーツの文化的特徴について扱う。			
		まとめ	まとめ			
教科書/ 副教材						
関連科目	科目「保健」					
評価の 観 点	知識・技能	運動の特性やルールを理解し、合理的・計画的・公正・安全に実践できる技能を身に付けている。				
	思考・判断・表現	運動を継続的するための課題を発見し、課題解決に向けての実践と、他者に伝える能力を身に付けている。				
	主体的に学習に取り組む態度	自己の果たす責任を理解し、協働や積極的に参画する能力を身に付けている。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	準備・片付け		○	◎	◎	2 0
	個人的技能(行動観察、技能)		◎	◎	◎	3 0
	集団的技能(行動観察、発言、話し合い等)		◎	◎	◎	3 0
	レポート・ノート・課題等		◎	◎	◎	1 0
	自己評価				◎	1 0
	その他 ()					
留意事項						
備考						

教科名	保健体育	科目名	保健	対象学年	1 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	1 単位	時 数	3 5
目 標 (生徒につけたい力等)	(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)		
1 学期	1 0	現代社会と健康	・健康の考え方と成り立ち ・私たちの健康のすがた		
			・生活習慣病の予防と回復 ・がんの原因と予防 ・がんの治療と回復		
			・運動と健康 ・食事と健康 ・休養・睡眠と健康		
2 学期	1 5	現代社会と健康	・喫煙と健康 ・飲酒と健康 ・薬物乱用と健康		
			・精神疾患の特徴 ・精神疾患の予防 ・精神疾患からの回復		
			・現代の感染症 ・感染症の予防 ・感染症・エイズとその予防		
			・健康に関する意思決定・行動選択 ・健康に関する環境づくり		
3 学期	1 0	安全な社会生活	・事故の現状と発生要因 ・安全な社会の形成 ・交通における安全		
			・応急手当の意義とその基本 ・日常的な応急手当 ・心肺蘇生法		
教科書/ 副教材	教科書「現代保健体育」(大修館書店) 副教材「現代保健体育ノート」(大修館書店)				
関連科目	科目「体育」				
評価の 観 点	知識・技能	健康・安全について理解を深めるとともに、健康・安全のための態度が身についている。			
	思考・判断・表現	健康についての課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けての思考・判断の能力と他者へ伝える能力が身についている。			
	主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指すため、協働・参画の態度が身についている。			
評価の 観点・方法	観点・方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)	◎	◎	◎	1 0
	実習(行動観察、技能)	◎	◎	◎	1 0
	テスト等	◎	◎	◎	6 0
	レポート・ノート・課題等	◎	◎	◎	1 0
	自己評価 その他 ()	◎	◎	◎	1 0
留意事項					
備考					

教科名	芸術	科目名	音楽 I	対象学年	1 学年	履 修	選択
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	2 単位	時 数	70
目 標 (生徒につけたい力等)	音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)
1 学期	20	歌唱	・歌う時の姿勢や呼吸について ・校歌 ・教科書、季節の歌 ・2パートでの合唱
		楽典とソルフェージュ	・副教材に載っているコンコーネやコールユーブンゲンを母音や階名で歌う。 ・基本的な楽典事項（音符や休符の種類、日本音名等） ・リズムアンサンブル
		器楽	・アルトリコーダーの基礎事項 ・アルトリコーダーで短い曲の旋律、2パートのアンサンブルを学ぶ。
		鑑賞	・よく耳にするクラシック曲を鑑賞し、曲や作曲者について学ぶ。
2 学期	30	歌唱	・合唱曲 ・季節の歌
		器楽	・ギターの基礎事項 ・ギターで、短い曲の旋律・簡易コード・弾き歌いを学ぶ。 ・様々な楽器を用いてアンサンブル(クリスマスソング等)
		鑑賞	・それぞれの「お気に入りの1曲」をプレゼン、鑑賞し、曲の構造上の特徴や、リズムを学び、様々なジャンルに触れる。
3 学期	20	歌唱	・季節の歌
		作曲・器楽	・これまでに学んだ音符、休符、リズムパターンを用いて作曲をし、楽器で演奏する。練習の成果を講座内で発表する。
教科書/ 副教材	教科書「MOUSA 1」（教育芸術社） 副教材等：「愛唱歌集 コーラスと信濃讃歌」（長野県高等学校音楽教育研究会・編）		
関連科目	科目「		

(令和7年度入学生適用)

教科名	芸術	科目名	美術 I	対象学年	1 学年	履 修	選択
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	2 単位	時 数	70
目 標 (生徒につけたい力等)	作品の制作と鑑賞を通して、基礎的な見る力(観察力・感じる心)、描く力(描写力)、表現する力を養うとともに、美術を愛好する心を育む。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	20	鉛筆によるグラデーションとトーンの表現	美術の授業のねらいと取り組み方について 鉛筆を用いて、白から黒への変化と調子の表現 (グラデーション、トーン)			
		鉛筆による白黒写真の模写	鉛筆により、白黒の写真を克明に模写する 石膏像、手、自画像など			
		1 点透視図の技法	簡略 1 点透視図法について理解する			
2 学期	30	校舎のスケッチ	透視図の理解に立ち、校舎のスケッチをする			
		農産物などのスケッチ	果実を中心とした農産物の鉛筆によるデッサン りんご、みかん、なしなど			
		シクラメンを描く	シクラメンなどの鉢物を水彩で描く シクラメン、ポインセチアなど			
3 学期	20	陶芸	たたらづくりの技法を用いてマグカップなどをつくる			
教科書/ 副教材	教科書「美術Ⅰ」(光村図書出版) 副教材「 」()					
関連科目	科目「 」					
評価の 観 点	知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。				
	思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。				
	主体的に学習に取り組む態度	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)		○	○	○	10
	実験・実習(行動観察、技能)		○	◎	◎	80
	テスト等					
	レポート・ノート・課題等					
	自己評価			○	◎	10
	その他 ()					
留意事項	(例) 実習を行う際の注意事項等					
備考	(例) 関連資格などその他伝達事項等					

教科名	英語	科目名	英語コミュニケーションⅠ	対象学年	1 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース	-	単位数	3 単位	時 数	105
目 標 (生徒につけたい力等)	英語を通して多様な文化・歴史を学び、情報や考えを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするなどのコミュニケーションを図る資質・能力を養う。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	7	be 動詞・一般動詞の現在形	世界の自然景観に目を向けることで、日本の自然や文化を再認識する。現在のことを表現する言い方に慣れる。			
	6	be 動詞・一般動詞の過去形	相手の立場で物事を考え、寄り添うことの大切さを学ぶ。過去のことを表現する言い方に慣れる。			
	6	進行形・助動詞	世界の踊りやアイルランドの踊りをとおして、世界の文化を学ぶ。「～している」や「～できる」などの言い方に慣れる。			
	6	不定詞	地球上の絶滅危惧動物を救うために、絶滅を免れた動物の経緯とこれからできることを学ぶ。「～すること」などの言い方に慣れる。			
	5	会話表現	初対面の挨拶・食事の注文・洋服の買い物での会話に慣れる。			
2 学期	9	動名詞	身近な食品の歴史と文化を学ぶ。「～すること」の言い方に慣れる。			
	1 0	比較	独特の活動を行う日本の高校の様子をとおして、自分の将来について考えるきっかけを作る。ものなどを比べる言い方に慣れる。			
	1 0	現在完了	身近に存在する思わぬ素敵なことについて学ぶ。過去からの継続や経験を表現する言い方に慣れる。			
	9	受動態	コンゴの生活や信念を学ぶ。「～される」の言い方に慣れる。			
	7	会話表現	休暇の様子・道案内での会話に慣れ、英語圏の文化を学ぶ。			
3 学期	8	分詞の形容詞用法	海外で活躍する日本人メイクアップ・アーティストの人生について学ぶ。「～している…」 「～される…」の言い方に慣れる。			
	9	関係代名詞	途上国での安全な水の確保をとおして、世界の環境問題について考える。「～する…」の言い方に慣れる。			
	1 0	関係副詞・仮定法	「わくせいキャベジ動物図鑑」をとおして、絵本作家の考えを知る。「～する…」 「もしも～なら、…なのに」の言い方に慣れる。			
	3	会話表現	体調を気遣う会話に慣れ、冬の生活・文化を学ぶ。			
教科書/ 副教材	教科書「Amity I」(開隆堂) 副教材「Amity I WORKBOOK」(開隆堂)、「英単語 Value 1000」(数研出版)					
関連科目	-					
評価の 観 点	知識・技能	英語の音声や語彙、表現、文法などの理解を深め、これらの知識を「聞く、読む、話す、書く」ことによるコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付ける。				
	思考・判断・表現	コミュニケーションを行う状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について英語で、その意図を的確に理解し、適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。				
	主体的に学習に取り組む態度	英語の背景にある文化への理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)			○	○	1 0
	実験・実習(行動観察、技能)		○	○	◎	1 0
	テスト等		◎	◎		6 0
	レポート・ノート・課題等		○		◎	1 5
	自己評価				○	5
	その他()					
留意事項	提出物は全て提出すること。					
備考	標準講座、基礎講座の2講座に分けて習熟度別授業を展開する。 およそ2週間に1回の割合でALT とのTT 授業を受ける。					

教科名	家庭	科目名	家庭総合	対象学年	1 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	2 単位	時 数	7 0
目 標 (生徒につけたい力等)	生活の営みに係る味方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、より良い社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力の育成を目指す。 (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身につけるようにする。 (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 (3) さまざまな人々と協働し、より良い社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。						

学 期	時数 (時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	1 5	人の一生と家族・家庭	生涯を見通した自己の生活について考える。ライフステージ別の目標を挙げ、その実現のために必要な技術や資格などの条件を考え、具体的に短期・長期的な計画を立てる。計画実現のための情報の集め方や取捨選択の重要性についても学ぶ。			
	5	食生活を営む	食品の生産や流通・販売の多様化、食糧自給率の低下などにより食生活を取り巻く環境が変化している現状について理解し、資源やエネルギー、非常時に配慮した食品の購入、調理などを考える。			
2 学期	1 0	栄養素の種類と働き	栄養素の種類と機能及び自己と家族の食事の栄養的な特徴について理解を深める。その際、食事摂取基準や食品群別摂取量の目安などを用いて、栄養的にバランスのとれた自己と家族の食事を計画できるようにする。			
	1 0	栄養と食事	自分の食生活を振り返り、食品購入から調理、食事において、ライフステージの特徴に応じた健康によい食生活の在り方を考える。			
	1 0	食品の衛生と安全 調理実習	食品の腐敗や変敗、食中毒、食品添加物などについて食品の購入・調理・保存と関わらせて理解できるようにする。特に食中毒については、具体例をあげ、その原因や症状、予防のための調理上の性質について理解し、調理実習の際に十分留意する。 日常用いられる食品の調理上の性質について理解し、調理器具の特徴や取り扱い方などの調理法の要点を踏まえ、調理の実験実習を通して知識・技能を身につける。			
3 学期	1 5	消費生活と環境問題	契約の重要性については、売買契約の他に多様な契約があることや、未成年と成年の法律上の責任の違いについて理解する。消費生活センター等に寄せられる問題を取り上げ未然防止の重要性について学び、被害に遭ってしまった場合の、具体的な救済方法についても理解を深める。			
	5	循環型社会の構築	持続可能な社会の構築には一人一人の参画が必要であることを、企業やNPO法人(特定非営利活動法人)等による取組など具体的事例を通して理解できるようにする。			
教科書/ 副教材	教科書「高等学校 家庭総合 持続可能な未来をつくる」(第一学習社) 副教材「生活ハンドブック 資料&成分表」(第一学習社)					
関連科目						
評価の 観 点	知識・技能	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身につけている。				
	思考・判断・表現	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身につけている。				
	主体的に学習に取り組む態度	さまざまな人々と協働し、より良い社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身につけている。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)			○	○	1 0
	実験・実習(行動観察、技能)		◎	○	◎	3 0
	テスト等		◎	○	○	3 0
	レポート・ノート・課題等		○	○	○	2 0
	自己評価				○	1 0
	その他 ()					
留意事項	施設・設備の定期点検及び整備を行い、安全管理や衛生管理を徹底する。生徒の食物アレルギーに関する正確な情報の把握に努める。					
備考						

教科名	探究基礎	科目名	北信州学	対象学年	1 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	2 単位	時 数	70
目 標 (生徒につけたい力等)	(1) 生まれ育った地域の文化・産業・自然を理解する。 (2) 専門学習と地域のつながりを理解し、学ぶ目的を明確にし、その姿勢と意欲を形成する。 (3) 社会人基礎力として、挨拶やマナーについて継続的に学び、健全な職業感を育成する。 (4) 自己を理解し、基礎学力の向上を計る。 (5) コース選択あるいは職業選択の基礎とする。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	1 0	ガイダンス マナー講座 キャリア教育	・北信州学の授業概要 ・ビジネスマナーについて ・春キャリアウィーク			
	1 2	地元を知る① 基礎学力養成 SDGsについて	・木島平村探訪 ・飯山市探訪 ・学び直し ・SDGsへの取り組み			
2 学期	8	地域を知る② 基礎学力養成 地域を知る③ 地域を知る④	・地域の観光資源を知る(観光体験) ・学び直し ・地域農業の現状と課題 ・地域の環境問題と環境調査のまとめ			
	8	キャリア教育	・秋キャリアウィーク事前学習 ・インターンシップ ・インターンシップのまとめ ・進路ガイダンス			
	1 8	地域を知る⑤ 地域を知る⑥ 基礎学力養成 地域を知る⑦	・地域の伝統産業体験 ・地域食文化について ・学び直し ・私の見た地域の課題			
3 学期	1 4	基礎学力養成 キャリア教育 地域を知る⑧	・学び直し ・進路ガイダンス ・福祉体験 ・地域の森林資源と林業について			
教科書/ 副教材						
関連科目						
評価の 観 点	知識・技術	・生まれ育った地域の文化、産業、自然を理解できたか。 ・自己を理解し、基礎学力の向上が計れたか。				
	思考・判断・表現	・学習内容から、コース選択あるいは職業選択の基礎として、自分の考えをまとめる ことができたか。 ・社会人基礎力として、挨拶やマナーについて学び、実践できたか。				
	主体的に学習に 取り組む態度	・専門学習と地域のつながりを理解し、学ぶ目的を明確にし、主体的、意欲的に取 り組むことができたか。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)				○	1 0
	実験・実習(行動観察、技術)		○		◎	3 0
	テスト等		◎	○		2 0
	レポート・ノート・課題等			◎	○	3 0
	自己評価				○	1 0
	その他 ()					
留意事項						
備考						

教科名	農業	科目名	農業と環境	対象学年	1 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	4 単位	時 数	1 4 0
目 標 (生徒につけたい力等)	(1) 農業と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	4 0 時間	農業学習の実際	(1) プロジェクト学習のねらいと進め方 (2) プロジェクト学習の段階とその発展			
		イネの栽培	(1) イネの一生と栽培計画、栽培環境と品種 (2) イネ栽培管理 塩水選・播種・育苗・施肥・代かき・田植え			
		ニワトリの飼養管理	(1) ニワトリの体の特徴、習性 (2) 品種とその利用法			
		生育調査(プロジェクト学習)	生育調査			
2 学期	6 0 時間	イネの栽培	(1) イネ栽培管理 追肥・雑草、病害虫の防除・稲刈・乾燥・脱穀			
		ニワトリの飼養管理	(1) ニワトリの消化器官の特徴と飼料の関係 (2) ニワトリの生産物および、その利用			
		生育調査(プロジェクト学習)	生育調査			
		ハクサイの栽培	(1) 野菜栽培の実際 (2) ハクサイ栽培の実践 (施肥・畦立・播種・育苗・定植・追肥・収穫)			
3 学期	4 0 時間	プロジェクト学習	(1) レポートの作成			
		環境の調査	(1) 大気及び雪の調査			
教科書/ 副教材	教科書「農業と環境」(実教出版) 副教材「リーダーシップ」(農山漁村文化協会)					
関連科目	科目「農業と情報」「北信州学」					
評価の 観 点	知識・技術	農業と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。				
	思考・判断・表現	農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。				
	主体的に学習に 取り組む態度	農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)			◎	○	1 0
	実験・実習(行動観察、技術)		○	○	◎	3 0
	テスト等		◎	○		4 0
	レポート・ノート・課題等			◎	○	1 5
	自己評価		○	◎	◎	5
	その他 ()					
留意事項						
備考						

教科名	農業	科目名	農業と情報	対象学年	1 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	2 単位	時 数	7 0
目 標 (生徒につけたい力等)	(1) 農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期 2 学期	1 0	産業社会と情報	○産業社会における情報の意義 ○農業における情報の役割と課題 ○情報モラルとセキュリティ管理			
	3 0	農業に関する情報手段	○ハードウェアとソフトウェア ○基礎的なプログラミングなどを含む、ソフトウェアの活用 ・文書作成ソフトウェアの活用 ・表計算ソフトウェアの活用 ・プレゼンテーションソフトウェアの活用 ・画像、図形処理ソフトの活用 ○農業の各分野における情報の役割 ○情報メディアとデータ ・Webページの作成			
	2 0	農業に関する情報の分析と活用	○情報通信ネットワーク ○生産、加工、流通、経営のシステム化 ○農業情報の分析と活用 ・スマート農林業とデータ ・リモートセンシング ・地理情報システム ・計測と制御			
3 学期	1 0	農業学習と情報活用	○農業情報を活用したプロジェクト学習のまとめ			
教科書/ 副教材	教科書「農業と情報」(実教出版)					
関連科目	科目「農業と環境」(プロジェクト学習のデータ処理)					
評価の 観 点	知識・技術	農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。				
	思考・判断・表現	農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。				
	主体的に学習に取り組む態度	農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)		○	○	◎	1 0
	実験・実習(行動観察、技術)		◎	◎	◎	6 0
	テスト等		◎	○		2 0
	レポート・ノート・課題等			◎	○	5
	自己評価 その他()				○	5
留意事項						
備考						